



2026年2月6日

各位

会社名 株式会社新日本科学
代表者名 代表取締役会長兼社長 永田 良一
(コード番号: 2395 東証プライム)
問合せ先 常務理事 岩田 俊幸
IR広報統括部長
電話 (TEL: 03-5565-6216)

2026年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2025年5月8日に公表いたしました2026年3月期通期（2025年4月1日～2026年3月31日）連結業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正について

2026年3月期通期業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

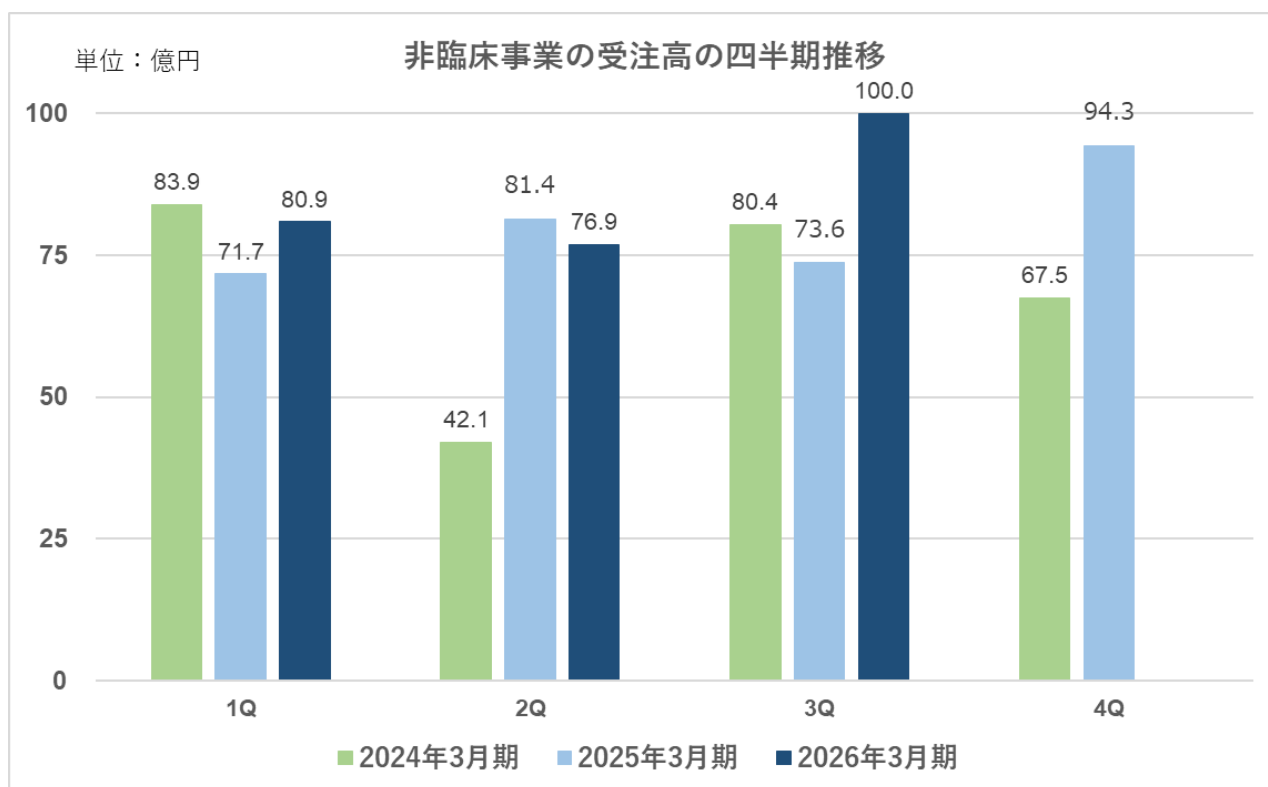
	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	33,272	3,550	5,927	3,550	85.27
今回修正予想(B)	30,698	2,600	5,353	3,561	85.53
増減額(B-A)	△2,574	△950	△574	11	
増減率(%)	△7.7	△26.8	△9.7	0.3	
(ご参考) 前年同期実績 (2025年3月期)	32,413	2,985	6,450	4,924	118.29

2. 修正の理由

2026年3月期通期売上高予想が計画未達になった主因は、非臨床事業で複数の大型試験において顧客からの化合物提供の遅れや追加試験が発生した影響等により売上計上が来期以降にずれることが予想されることによります。非臨床事業につきましては、業績の先行指標となる受注高を次ページにグラフで示しましたように、第3四半期（10月-12月）の受注高は100億円と四半期ベースで過去最高となりましたが、その多くは来期以降に売上計上されるものです。

営業利益に関しては、米国子会社Satsuma Pharmaceuticals社（以下 Satsuma社）の下期コスト（1,241百万円）を計上したことをTR事業のSatsuma社以外の経費見直し等で対応を図りましたが、収益源の非臨床事業に期ずれが発生したこともあり、他の事業でカバーしきれず、950百万円の計画未達となる予想です。経常利益に関しては、新日本科学PPDからの持分法による投資利益が期初計画を191百万円上回ることもあり、営業利益よりも修正幅は減少しています。親会社株主に帰属する当期純利益の差異については、カンボジア子会社から日本へのNHP（Non-Human Primates）入荷量の期を通じての柔軟な調整により、カンボジアでの法人税が期初予想より減少することが主な要因です。

（注）上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。



以上